

## ①演題名 重症高血糖発症と健診データとの関連

②氏名 中川 知子<sup>1)</sup>、畑 淳子<sup>2)</sup>、大平 哲也<sup>3)</sup>

③所属機関名 1) 全国健康保険協会福島支部 2) 福島県立医科大学健康増進センター  
3) 福島県立医科大学医学部疫学講座

## ④本文

【目的】全国健康保険協会（以下、「協会けんぽ」という。）福島支部では、加入者の方々の健康づくりおよび生活習慣病の予防を推進するため、平成 25 年 10 月より、生活習慣病予防健診の血圧値・血糖値で要治療と判定されながら、速やかに医療機関を受診していない方々へ、かかりつけ医への受診勧奨を実施する「重症化予防事業」を行っている。本研究では、当該事業をより効果的かつ効率的に実施するための検討材料として、加入者の健診データを継続的に解析し、重症高血糖の発症要因を検討する。

【対象】平成 24 年度に健診を受診した 35 歳～74 歳の被保険者のうち、空腹時血糖 160mg/dl 以上または HbA1c (NGSP 値) 8.4%以上（以下「重症高血糖」という。）ではなく、かつ同健診を平成 25～29 年度のうち少なくとも 1 回以上受診した者 104,453 名（男性 63,423 名、女性 41,030 名）。

【方法】平成 24 年度をベースラインとして、重症高血糖の新規発症について最大 5 年間、前向きに検討した。男女別に年齢・居住地域（二次医療圏別）・業態・肥満度・生活習慣（飲酒頻度・飲酒量・早食い・喫煙・歩行または身体活動・睡眠）について、それぞれ重症高血糖発症との関連を多変量解析によって検討した。

【結果】男性は、単変量解析では、年齢（35～39 歳と比較し、70～74 歳を除いた各年代）・居住地域（県北と比較し、会津、相双、いわき）・業態（医療・福祉業と比較し、農林水産業、建設業、情報通信業）・肥満度（BMI25 以上）・早食い（ふつうと比較して早い）・歩行または身体活動（1 日 1 時間以上実施していない）が重症高血糖発症に関連した。多変量解析の結果、年齢（すべての年代）・居住地域（会津、相双）・業態（情報通信業）・肥満度（BMI25 以上）・早食い（早食い）が重症高血糖発症に有意に関連した。

女性は、単変量解析では、年齢（35～39 歳と比較し、70～74 歳を除いた各年代）・居住地域（県北と比較し、いわき）・肥満度（BMI25 以上）・早食い（ふつうと比較して早い）が重症高血糖発症に有意に関連した。

多変量解析の結果、年齢（50 歳代、60 歳代）・居住地域（いわき）・肥満度（BMI25 以上）が重症高血糖発症に有意に関連した。

【考察】今回の結果、生活習慣に関する項目に加えて、業態や地域差が重症高血糖発症に関連することが明らかとなった。今後、その要因についてさらに検討していくこととしたい。